

学生の農業支援による八王子市の課題解決 後継者問題と地域コミュニティの活性化に向けた取り組み

To solve Hachioji City's problems through student agricultural support for succession issues and revitalization of local communities

中山ゼミ Team AguColle

中森ねね 吉野美香子 崎山友結 三上康人 村上舞 李恩眞 田尾ゆ心 立崎瑠々
指導教員 中山雅司

創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

キーワード：学生，農業支援，インカレ，地域コミュニティ，後継者問題

1. はじめに

八王子市の特色として都内 1 位の農業生産高と多くの大学を有することが挙げられる。一方、地域コミュニティの高齢化・弱体化に伴う産業の後継者不足に直面している。この問題を解決すべく、その特色を生かし、八王子市に住む学生を中心としたインターカレッジの設立を通して、学生の農業に対する関心を高め、農家の後継者問題の解決に向けた活動を提案する。

2. 現状分析

(1) 農業の後継者問題

八王子市は近年の急激な都市化の進展により、経営面積の縮小、兼業化への移行、また若者労働者の他分野への流出などが課題となっている。その中でも、特に農業従事者の高齢化に伴う農業の後継者問題は、急務で解決すべき深刻な問題となっている。八王子市が行った平成 18 年度と平成 27 年度の農家アンケート調査によると、後継者がいないという農家が、平成 18 年度は 11.1%であるのに対し、平成 27 年度は 20.6%と約 10%増えている。このように、八王子市の農業の後継者不足問題は深刻化しているのである。

(2) 学生の意識

【若者×農業】

若者の農業への意識調査から、特に初めての農作業を経験した時期が大学生の時である場合、農

業体験・学習への参加を希望する割合が最も高くなっていることが分かった。このことから、大学生を対象とした農業体験はその後の農業への興味・関心に大きな影響を与えることができると言える。では、実際に学生は農業体験・学習の取り組みへ具体的にどのような関心を持っているのだろうか。

同調査で、「学生の農業体験・学習への参加を希望する人がどのような理由で参加を希望するのか」を尋ねた。中でも目立った回答が「楽しそう(40.4%)」、「思い切り体を動かしたい(28.7%)」、「家庭菜園的なものをしたい(27.6%)」であった。このことから、農業体験・学習は楽しそうだという気軽な気持ちで参加を希望していることが分かった。以上のことから、農家の後継者問題の解決に向けて、特に大学生をターゲットに学生が気軽に参加できるようなイベントやコミュニティの場を提供することは効果的であると考えた。

【学生×八王子】

現在八王子市では、学園都市の魅力を生かし大学等が行う「課題解決型学習」に重点を置き、大学と地域との連携を推進している。また、八王子市の「産業振興マスタープラン」においては、「産業振興の体制強化」、「新産業の創出」を目標に掲げ、大学生×民間企業×地方公共団体との「産学公連携」を推進している。

このことから、大学生と農業をつなげるコミュニティを創出することで、八王子市の掲げる目標

である「地域産業の発展」に寄与できると同時に、「農業の後継者不足」の解決に向けた「課題解決型学習」の促進にも繋がるのではないかと考えた。

3. 提案

以上の八王子市の課題に対して、同市の特色を生かし、八王子市と連携した学生による農業支援大学横断型サークルの設置、活動を提案する。

内容として、

1、農業に関心のある学生を集めたサークル組織の設置。

2、八王子市の農業についての実態学習、農業訓練の実施。

3、八王子市と連携し、市内の人手不足の農家に対し農作業補助を行う。

4、その地域の農家と連携した地域イベントの開催。

1について、八王子にある21の大学で連携し、各大学から農業に関心のある学生を募り、八王子市の協力を借りながら大学の垣根を超えたインターカレッジサークルを設置する。

2について、サークルで八王子市の農業について実態を調査し、学習の場を設ける。また、農業についても、農協等が行うプロジェクトへの参加等を通して、一人ひとりが補助を行えるだけの技能訓練に接する。

3について、頻度として週に一回程度の農作業補助を目安とし、人手不足の解消と、農家の身体的負担の減少を目的とする。

4について、例えばA地域では、親子で農業体験を実施する。B地域では、廃棄予定の作物を使用して無料食堂を開催するといった様々なイベントを地域ごとに実施する。

このように、地域コミュニティと農業の繋がり、また地域コミュニティと学生の繋がりを創出し得る企画をインターカレッジ内で立案し、八王子市と連携しながら行なっていく。

4. 提案によってもたらされる3つの効果

1つ目は、「学生の農業に対する興味・関心の向

上」である。現状分析で述べたように、大学生が農作業に触れることで、農業への興味・関心が高まり、その後農業体験・学習への参加を希望する割合が最も高くなっていることがわかった。インターカレッジを作り、活用することで学生の農業に対する興味・関心の向上が期待される。また、課題解決を通して、学生に八王子市に対する愛着を持ってもらう狙いもある。結果として、将来的に八王子に住む若者の増加を目指し、農業を含めた産業の後継者不足問題の解決にも繋がると予想される。

2つ目は「地域コミュニティの活性化」である。インターカレッジの学生中心のイベントを地域で行う事により、地域コミュニティの活性化に繋がるといえる。農家と学生だけでなく住民や協力する農業団体をもつなげることができる。このようなイベント開催によって、地域コミュニティの活性化を期待することができる。

3つ目は「地域産業の発展」である。上記で述べた様な農業の後継者不足問題の解決とイベントによる地域コミュニティの活性化を期待することで、都内随一を誇る八王子市の農業生産高をさらに押し上げ、地域産業自体の発展に繋がることを期待する。

5. 参考文献

・『八王子学園都市ビジョン』地域連携支援（閲覧日：2021年10月2日）

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a951649/p021599_d/fil/gakuentoshi_vision_honpen.pdf

・『若者の農業・農作物への意識調査』—農業体験、学習への取り組みの重要性—（閲覧日：2021年10月2日）

<https://core.ac.uk/download/pdf/228637931.pdf>

・第2章 八王子農業の現状と課題（閲覧日 2021年10月2日）

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/content/s/kouhou/006/p003431_d/fil/kohol40101.pdf